

# 国語科 学習指導案

日時・場所：平成17年10月4日(火)5校時 2年2組教室  
学 級：2年2組(男子9名 女子14名 計23名)  
授 業 者：教諭 佐々木朋子

1. 単元名 「三 心のきずなをとらえる」  
(「感想を交換しよう」「感想の深まりを伝え合おう」)

## 2. 単元について

### (1) 教材観

本単元は、小説「ゼブラ」、随筆「字のないはがき」を通して、心のきずなや人と人とのつながりを考え、作品と自分とがどうかかわり重なるのかを考えることを大きな読みのねらいとしている。また、「感想を交換しよう」「感想の深まりを伝え合おう」では、伝える相手を想定することで自分の考えを明確にして書き、それを伝え合うことで感想が深まることを意図している。

本時でとりあげる教材「感想を交換しよう」「感想の深まりを伝え合おう」は、学習指導要領の「A 話すこと・聞くこと(1)のエ」「B 書くこと(1)のイ およびカ」の指導に適している。

### (2) 生徒観

全体的に落ち着いた雰囲気、定期テスト等の学力は女子生徒の方が高いが、授業では活発な男子生徒の発言の方が多い。「書くこと」に関しては苦手意識があり、特に男子生徒にはその傾向が強い。また、「話すこと・聞くこと」に関しても、普通の授業では一部生徒の発言に頼りがちで、意見を交流することで自分の考えを深めるにはなかなか至らない。

### (3) 指導観

「書くこと」に関して、各自が自分の考えを明確にするためには、前段階となる「ゼブラ」と「字のないはがき」の内容を理解し、自分なりの読みの視点をもつことが必要である。そこで、この二つの教材の読み取りは、比較的時間をかけて丁寧に行った。

「話すこと・聞くこと」に関して、「感想を交換しよう」と「感想の深まりを伝え合おう」では、内容を精選し、相手に向けて自分の感想を伝えることと、相手の感想に対する自分の考えをもつことを中心に取り組むことにした。しかし、感想を

聞いて、すぐにそれに対する考えを明確化することはかなり難しい生徒も少なくない。そこで、最初に感想を伝えた後、それに対する自分の考えをまとめる時間を取り、相手の考えを聞いて深まった感想をもう一度伝え合うという形をとることにした。

また、本校の研究主題に関わる「表現の場」として、「自分の考えを書くこと」、「書いたことを伝えること」と、「本文の表現を味わい朗読すること」の三点を設定した。

### 3. 単元の目標

#### 【関心・意欲・態度】

- ・ 作品の優れた表現を味わい、表現の工夫に着目しながら読もうとする。
- ・ 自分の考えを書くにあたって、他の人の考えや表現のしかたを自分の表現に役立てようとする。

#### 【話すこと・聞くこと】

- ・ 目的に沿って話したり他の人の感想を注意深く聞き、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすることができる。A(1)エ

#### 【書くこと】

- ・ 作品を通して得た自分の考えを、相手に伝わるように明確に書くことができる。B(1)イ
- ・ 交流によって深まった自分の考えを、文章にまとめることができる。B(1)カ

#### 【読むこと】

- ・ 文章中における語句の効果的な使い方や象徴的な表現・描写に注意しながら読み進めることで、全体の内容をつかむことができる。C(1)ウ
- ・ 文章を読んで人と人とのきずなについて考え、自分の意見をもつことができる。C(1)エ

#### 【言語事項】

- ・ 相手や目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気づくことができる。(1)エ

#### 4. 小単元の指導計画と評価規準

時間	指導目標	評価規準				
		関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
1	作品を通して得た自分の考えを、相手に伝わるように明確に書くことができる。			作品を通して得た自分の考えを、相手に伝わるように明確に書いている。	文章を讀んで人間について考え、自分の意見をもっている。	相手や目的に応じて文章の形態や展開の違いがあることに気付くことができる
2	他の人の感想を注意深く聞き、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすることができる。		他の人の感想を注意深く聞き、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりしている。			
	自分の考えを書くにあたって、他の人の考えや表現のしかたを自分の表現に役立てようとする。	自分の考えを書くにあたって、他の人の考えや表現のしかたを自分の表現に役立てようとしている。				
	交流によって深まった自分の考えを、文章にまとめることができる。			交流によって深まった自分の考えを、文章にまとめている。		
3 本時	作品の優れた表現を味わいながら読もうとする。	作品の優れた表現を味わいながら読もうとしている。				

	<p>目的に沿って話したり他の人の感想を注意深く聞き、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすることができる。</p>		<p>目的に沿って話したり他の人の感想を注意深く聞き、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりしている。</p>			
--	---	--	---	--	--	--

## 5. 本時の指導

### (1) 目標

- ・ 作品の優れた表現を味わいながら読もうとする。
- ・ 目的に沿って話したり他の人の感想を注意深く聞き、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすることができる。

### (2) 具体の評価規準

観 点	具体の評価規準		Cと判断される生徒への対応・支援
	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	
関心 意欲 態度	作品の優れた表現を味わい、表現の工夫を自己の表現に生かして読もうとしている。	作品の優れた表現を味わいながら読もうとしている。	簡単な目当てを持たせ、意欲を喚起する。
話す こと 聞く こと	目的に沿って話し、他の人の感想を注意深く聞き、それをもとに自分の考えを見なおし、考えを深めている。	目的に沿って話し、他の人の感想を注意深く聞き、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりしている。	考えを整理しやすいように、最初の段階で書いた互いの感想をプリント化して用意する。

### (3) 指導の構想

本時の授業における「表現の場」は、本文の朗読と感想の発表の場に設定した。

作品を味わい生き生きと表現させるために、朗読の教材は小説「ゼブラ」に限定し、学習したことをもとに人物の心情を表現することを意識させて朗読をさせたい。

感想については、書くことと伝えることの2点が表現活動として考えられる。自分宛に書かれた感想をもとに考えを深めて「書く」ことを前段階とし、本時は「話す」ことでそれを相手に伝えさせたい。

(4) 展開

段階	学 習 内 容	学 習 活 動 * 表現の場	指導上の留意点 評価 表現方法の工夫、手立て
導入 5分	1 前時の学習内容の想起  2 本字の学習内容の確認	1 プリントで、お互いに伝え合った感想を確認する。  2 どのような目当てをもって発表するか確認する。*	目当てを板書し、意識化させる。
展開 40分	<div data-bbox="347 692 975 790" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現の工夫をして朗読しよう。</li> <li>・ 自分の考えを伝え合おう。</li> </ul> </div> 3 グループによる朗読  4 感想の発表  5 感想を交流してのまとめ	3 分担した役割について、自分が朗読の工夫をした点を発表し、グループによる朗読の発表を行う。  4 自分が書いた感想を相手に伝える。*  5 感想の交流を通して、自分の考えを深めることができたかを考え書く。	工夫は事前に考えさせておく。 作品の表現を味わい、自分の朗読に生かそうとしているか。 ・ 朗読を聞く側が、工夫した点に注目して聞くことができるように、よいと感じた点をメモさせ発表させる。 伝える形にふさわしい発表の仕方を意識させる。 発表を注意深く聞き、自分の考えが広がり深まったりしたかを考えさせる。
終結 5分	6 まとめの発表	6 書いたことを発表する。	